

筑西市立下館中学校 三年

一歩踏み出す勇氣

牛^{うし}木^き 琥^こ大^た朗^{ろう}

「市内第三位、男子バレーボール部。」そう呼ばれ、「はい。」と大きく返事をする中に僕がいます。何でもないように感じるこの景色も、一年前の僕には決して想像もできないような景色でした。みなさんは、「自分には難しいな。」「出来ないな。」と思ったこと、諦めてしまったことはありませんか。僕も、今まではそのようなことができました。でも、中学校の三年間を通して、「頑張ってみよう。」「諦めないでやってみよう。」と思えるようになりました。

僕は現在、毎日学校に登校しています。しかし、ここまでは長い道のりがありました。中学校の入学式の日、期待を胸に初めて教室に入ると頭が痛くなってしまうしました。そこから一年間、学校の雰囲気嫌になり、ほとんど学校に行くことが出来ませんでした。

二年生になり、オンラインで授業を受けたり、クラスの友達と少し話したりすることができるようになってきました。しかし、教室に入るということは僕にとって高い壁のように感じられ、なかなか足を踏み出せませんでした。それでも、クラスメイトは、機会があれば優しく話しかけてくれ、分からないことがあれば教えてくれました。また、一緒に給食を食べることもあり、少しずつ、学校に対する嫌な気持ちと和らいでいきました。僕の中にもみんなと一緒に教室で過ごしたい、そんな気持ちが生まれ始めました。

あるとき、僕がクラスに入れるようになるきっかけとなった出来事がありました。最近の学校での話を父としているとき、不意に父が「運動不足は良くないから。」と部活動への入部を提案してくれました。この言葉を聞いて、

僕自身も元々部活動に興味があったこと、一年生の頃には挑戦することが出来なかったことを思い出しました。また、一緒に給食を食べてくれた先生とクラスの友達がバレーボール部に所属していたので、自然とバレーボール部という選択肢が頭に浮かびました。

「二年生の三月、あと五、六ヶ月で引退という時期にバレーボール部に入部してもよいのだろうか。」僕は毎日そんなことを考えるようになりました。しかし自分の中で、変わりたい、そんな気持ちが大きくなってきているのも事実でした。そして、たくさん悩んだ末に僕はバレーボール部に入部することを決めました。

バレーボールを今までやったことがなかった自分が、二年生のこの時期に部活動に入部してついていけるのだろうか、そんな不安を抱えながら、初めて部活動に行きました。しかし、自分の考えは杞憂であったことがすぐに分かりました。そこでは、ルールも分からないような僕に、顧問の先生、同じ学年の友達、後輩たちが基礎的なことから丁寧に教えてくれました。

バレーボールは、チームで行うスポーツです。声を掛け合い、プレーします。これまで大きな声を出すことがなかった僕にとって、掛け声などで声を張ることが、人とコミュニ

ケーションを取る、「声を出して話す」ことの苦手意識を克服することにつながったのです。そのうえ、部活動の仲間と打ち解け、「部活動」の中から「学校」での集団生活を「楽しい」と思えるようになりました。僕の入学式のときの「嫌だな。」という「学校」に対する思いは、三年間で一八〇度変わりました。

バレーボールとの出会い。この出会いこそが、僕の人生を大きく変えてくれました。もちろん、僕が変われたのは、周りの先生方、友達、家族の支えがあったからこそだと思います。

みなさんも、もし「自分には難しいな、出来ないな。」と思ったときには、すぐに諦めるのではなく、出来ることからチャレンジしてみてください。やる前から諦めたり、一歩を踏み出せずにいることがあっても、小さなことから、まずはやってみることが大切だと僕は自分の経験から学びました。自分を変えるような出会いは意外と身近にあるのかも知れません。だからこそ、この主張を聞いているみなさんがどんなことにも積極的に取り組んでみようと思ってくれると嬉しいです。